

絲綢之路

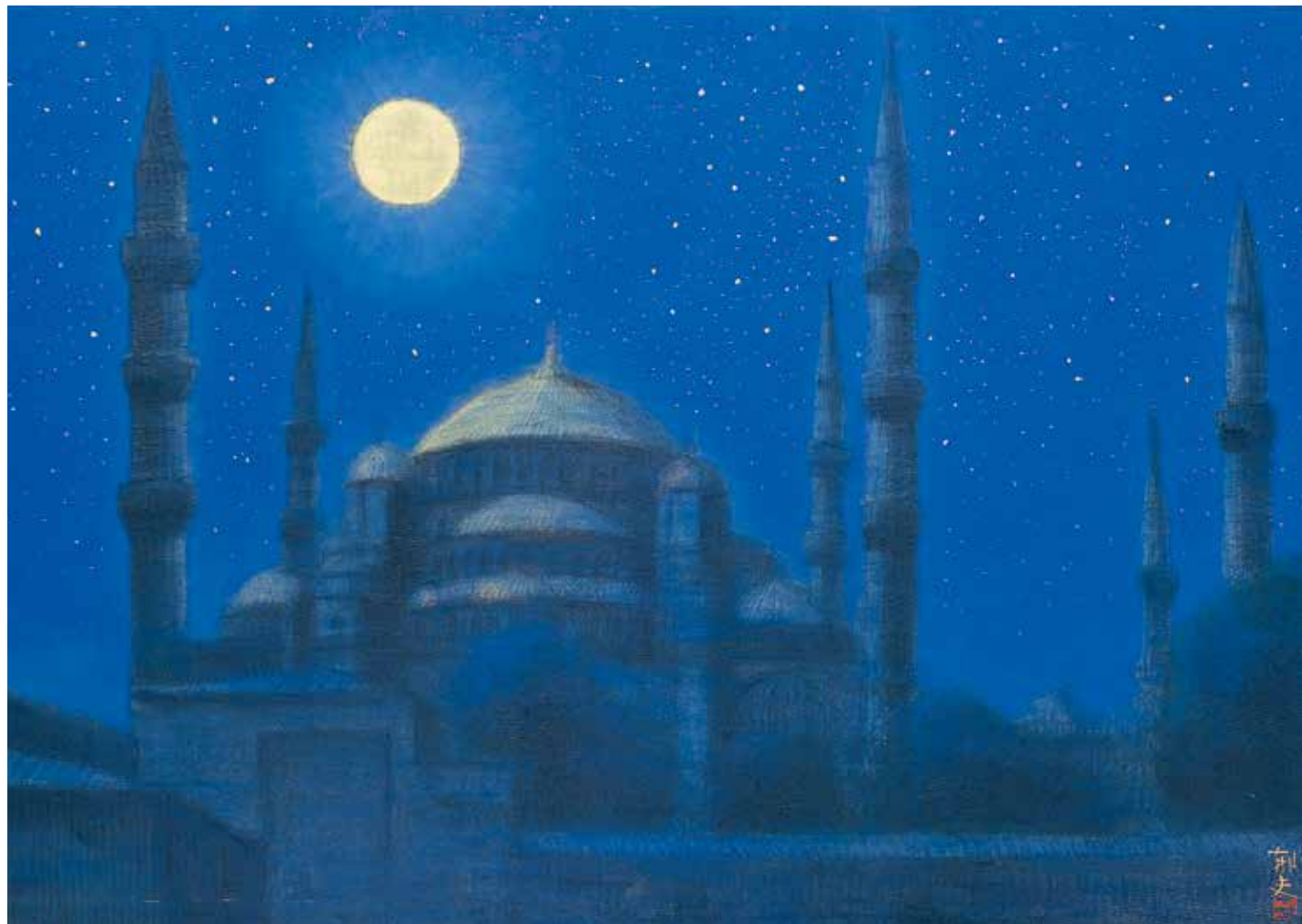
シルクロード

S I L K R O A D

2020-秋

No.94

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



ブルーモスク トルコ 2007年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

上野公園の東京国立博物館と東京藝術大学の間の一角にある、明治期ルネサンス様式の建物が国立国会図書館国際子ども図書館です。明治三十九（一九〇六）年に帝国図書館として建てられた建物を原形保存しながら、平成十二（二〇〇〇）年に国際子ども図書館として開館しました。建物は重厚な歴史的建造物ですが、令和二（二〇二〇）年の今年、ようやく開館して二十年という記念の年を迎えました。開館記念日の五月五日には記念イベントを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のために中止となってしまいました。

国際子ども図書館は「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」という理念の下に、「児童書の専門図書館」「子どもと本のふれあいの場」「子どもの本のミュージアム」という三つを基本的役割としています。平成二十八（二〇一六）年に新館（アーチ棟）を増築してのリニューアルオープンを経て施設が充実したことにより、低年齢層から中高生まで、各年齢層に適した子どもと本のふれあいの場を提供することができるようになりました。

「国際子ども図書館」という名称ですが、利用者は子どもばかりを想定しているわけではありません。国内で発行された全ての出版物を国立国会図書館に納入することが義務づけられている、「納本制度」ということを耳にされたことがあるかも知れません。国立国会図書館の一翼を担う国際子ども図書館は、この納本制度により収集された、日本国内で刊行されおむ

ね十八歳以下の方を利用者として想定される、さまざまな形態の資料を所蔵しています。開館時には約四万冊の蔵書からスタートしましたが、蔵書数は年々増加し、現在は約十倍にまで充実しました。国内で刊行された児童図書約三十三万冊、児童雑誌約千七百タイトルのほか、学習参考書や児童向けのDVD、CD-ROMなども所蔵しています。さらに、子どもの本を通して異文化理解や国際交流を進めることを企図して、児童文学の出版や研究が盛んな欧米地域だけでなく、約百六十の国と地域の児童書を積極的に収集し、約十二万冊を所蔵しています。リニューアル時に新設された児童書研究資料室では、こうした蔵書のほかに、二百七十五万点の国立国会図書館でデジタル化された資料、雑誌や新聞のデータベース、外国電子ジャーナルなどの電子情報を利用することができ、児童書の専門図書館として、おとなの研究のための環境を整えてもいます。

旧館（レンガ棟）三階には、高い天井に丸い展示塔が特徴的な「本のミュージアム」という図書館らしからぬ、展示会のための専用施設があります。これは、ふだんは保存のための環境が整った書庫に収納されている子どもの本の魅力を、広く紹介するための取組に開館当初から力を入れているからです。この二十年間に六十六回、延べ五千三百日以上にわたって展示会を開催してきました。開館記念展示会「子どもの本・翻訳の歩み展」、開館十周年記念展示会「日本発☆子どもの本、海を渡る」など、展示会の三分の二は翻訳書

筆者略歴

一九六二年生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。
一九八六年国立国会図書館入館。二〇一四年国際子ども図書館資料情報課長。その後、総務部司書監、収集書誌部副部長を経て、二〇二〇年四月に国際子ども図書館長に就任。

や海外の児童書をテーマにしたものです。蔵書の約四分の一を占める外国の子どもの本の数々を多くの方に知ってもらい、「子どもの本は世界をつなぐ」という理念を実現しようとする気持ちの表れと言えるかも知れません。

現在は、国際子ども図書館開館二十周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」を本のミュージアムで開催中です。国際子ども図書館の歩みとともにあった平成の時代に活躍した、日本の絵本作家三十五名に焦点をあて、それぞれの作家が生み出した約二百点の作品とともに平成という時代を振り返ります。昭和の時代の影響を受けつつ、平成の時代には作品表現に磨きかけた絵本作家たちが個性を発揮し、子どもの本を彩り豊かにしました。子どもの世界にとどまらず、また、絵本というジャンルをも超えて人々を魅了するような、芸術性の高い絵本も増えています。多彩な絵本作家たちによる個性豊かな絵本を楽しんでいただけるのではないのでしょうか。この機会に、国際子ども図書館に足をお運びいただけたらうれしいです。

二十周年を迎えた国際子ども図書館

開館二十周年記念展示会開催中



国際子ども図書館
館長
堀 純子
(ほり・じゅんこ)

マラッカとジョージタウン、マラッカ海峡の古都群

(マレーシア)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

©NFUJ

マラッカ海峡に面したマラッカとジョージタウンは、東西間の貿易・文化交流を通じ、五百年以上にわたって発展を遂げてきた交易都市。十五世紀以降、ポルトガル、オランダ、イギリスなどの列強に支配された。

マラッカの政府庁舎や教会、広場、要塞などは、十五世紀にスルタンの領土だったこの町が、十六世紀初期にポルトガルやオランダに支配された歴史を物語る。一方、ジョージタウンでは、住居や商業用施設などが十八世紀末からのイギリス統治時代の名残りとどめる。

西洋と東洋の有形無形の文化が重層的に融合した両都市の景観は、東アジアや東南アジアでは比肩する場所がない独特な風景である（写真はマラッカ）。

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

新型コロナウイルス禍と東京都美術館

東京都美術館・館長
真室 佳武
(まむろ・よしたけ)

社会の様々な分野に新型コロナウイルス感染症は、多くの傷跡を残した。そうした中、美術館は今、どう立ち直ろうとしているのか……。

見えない敵コロナの 災禍に見舞われる

上野公園には美術館、博物館、コンサートホールなどの文化施設が集積し、世界でも有数の文化芸術の一大拠点として、都民はもとより国内外からの多くの人で賑わってきた。ところが、今年はその様相が一変した。新型コロナウイルス感染症のためである。中国武漢に発したとされる感染症が瞬く間に世界に拡大し、収まる気配がない。一月末以来七カ月余りが経った今も増減する感染者の数や、わが身はもとより家族、友人、職場などでの感染を気にせ



東京都美術館

ずには過ごせない日が続いている。この目に見えない敵の影響は、社会のいたるところに及んで、深刻な問題を引き起こしているが、美術館や博物館も例外ではない。東京都美術館では、他の多くの美術館同様に、展覧会や関連事業の中止、延期が相次ぎ、三月末から六月は休館を余儀なくされた。感染防止のため外出自粛とともに、職員は在宅勤務の体制をとるなど感染防止に努め、業務を続けている。

東京都美術館は、大正十五（一九二六）年の創設以来、同時代の画家や彫刻家などの作品発表の場としてその使命を担ってきた。その機能は今日も維持



感染拡大防止掲示パネル

られ、年間二百五十余の公募団体展が開催されている。令和二年も正月明けは順調であった。ところが、一月下旬に新型コロナウイルス感染症の症例が都内で確認され、都立の施設では感染拡大防止の対策として、マスクの着用、手の消毒（消毒液の設置）、検温、ソーシャルディスタンス、室内換気などの徹底が図られることになった。注意を喚起する掲示パネルを作成し、館の出入り口に設置するなど様々な対策が講じられた。

かくして展覧会は中止に 追い込まれたが……

公募団体には、大勢人が集まる展覧会などへの東京都の感染拡大防止の方針に沿って、詳しい情報提供を行い、大方の団体が中止を決めた。全国規模の公募展では、作品審査の際も審査員は全国から集まらなければならない。当然移動時の感染の危険も懸念され、また、審査会も密な空間での長時間作業になる恐れもあり、展覧会準備そのものが感染の危険



会期中で閉幕となった「ハマスホイとデンマーク絵画」展ポスター

うに設えた。展示作品が多い割には、ゆくりと鑑賞できるので、来館者には好評であった。ただ、パソコンやスマホなどの予約に不慣れな人への対応については課題が残った。

予定していた特別展の「イサム・ノグチ 発見の道」及び「世界遺産ローマ展（仮称）」は、共に海外からの作品借用ができないため中止となったが、明年令和三年（二〇二二）は新たに「没後70年 吉田博展」（二月二十六日―三月二十八日）の実施を決定し、「イサム・ノグチ展」（四月二十四日―八月二十九日）も開催する予定である。

性を孕んでいる。当館は七月から開館したが、結局二月から九月末までに中止した公募団体は、八割以上の百三十三団体に及んだ。十月以降もすでに二十二の団体が中止を決めている。

一方、海外や日本の名品を紹介する特別展は、春の「クリムト展 ウィーンと日本1900」、秋の「コートールド美術館展 魅惑の印象派」は大変盛況であったが、「ハマスホイとデンマーク絵画」（一月二十一日―三月二十六日）は、残念ながら会期中で閉じざるを得なくなった。

四月以降も、図録まで出来上がっていた「ポストン美術館展 芸術×力」が、彼地の感染症拡大の影響で作品の搬出などすべての業務が止まり、日本での展示は中止せざるを得なくなった。また、オリンピック・パラリンピック東京大会の年であり多くの外国人観光客を見込んでいた「The UKYOJE 2020―日本三大浮世絵コレクション」（七月二十三日―九月二十二日）は、スポーツの祭典が来年に延びたとはいえ、すでに準備を進めており、厳しい感染症対策のもと開催に踏み切った。いわゆる三密（密閉、密集、密接）を避けることを第一に、オンラインによる日時指定の事前予約制を取り、人数制限を行った。会場も一筆書きのように壁面をつくり、鑑賞者を一方向に動けるようにして、混雑を極力避けるよ



オンラインでのプログラムの様子

こうした中で、新しい方法で活発な活動が試みられているのは、人と作品、人と人のコミュニケーション事業だ。ウェブ会議システムを早々に導入し、市民と協働する「とびらプロジェクト」では四月から八月までの五カ月で計百八十回の市民によるミーティングが行われ、のべ二千七百二十六人が参加している。並行して学びの場である各種講座はオンラインの良さを活かした

その影響の克服と将来に向けて

新型コロナウイルス感染症拡大による美術館への影響は、展示事業や関連事業だけでなく美術館全体に及んでいる。展覧会が中止になれば、当然経済的な損失が生じ、その問題の解決に当たらなければならない。更には、入館者の減少で観覧料等収益も減り、次年度予算にも響いてくる。公募団体も展覧会を中止すると、次年度以降の応募者が減少し、団体運営にも影響が出る。公募団体にとって会員の老齢化とともに応募者の減少は大きな問題なのである。

この未曾有の災禍にどう立ち向かい、どのような将来像を描けばいいのか。コロナ後の美術館の存在意義や、在り方が模索され、時代に相応しい新たな美術館像が求められていくことであろう。おそらくどの美術館もコロナ禍への当面の対応は無論のこと、将来についてすでに真摯に取り組んでいることは想像に難くない。東京都美術館においてもその試練を免れないことは十分に覚悟せねばならない。

筆者略歴

昭和十二（一九三七）年香川県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科中退。東京藝術大学非常勤講師、群馬県立近代美術館学芸課長、東京都美術館事業課長などを経て平成七（一九九五）年より現職。平成十八（二〇〇六）年より鎌倉市鶴木清方記念美術館館長を兼務。専門は「ジャン・コクトー」中世フランス美術、日本近・現代美術。

考古学の発掘調査と遺跡の観光化

新発見は新観光地を生む……！

永年にわたりトルコの地で発掘調査に携わる筆者が語る
遺跡と観光のジレンマとは？

魅惑のカマン・カレホユック遺跡

一九八六年以来、私はトルコのほぼ中央部に位置しているカマン・カレホユック遺跡（カレホユック）で発掘調査を行っている（写真1）。気がついてみると調査も三十六年目に入っていた。時折、遺跡を管轄している文化・観光省、史跡及び博物館総局（通称考古局）から遺跡保存に関する通達が送られてくる。その多くは、発掘で見つかった遺物、建築遺構の復元、保存に關してのことが多い。展示に叶う遺物を博物館に納めることは当然である。ただ、現場で確認された建築遺構を出来る限り保存するようにとの記載には閉口する。発掘調査を行っている者にとって、出土した建築遺構の復元、保存となると経済的にも大変な負担になる。特に、カレホユックにとつて発掘調査の方針にも関わる問題である。



(写真1) カマン・カレホユック

カレホユックの調査の目的の一つは「文化編年の構築」である。換言すれば、「年表」の作成である（図版）。遺跡は、径二百八十

メートル、高さが十六メートル、トルコでは中規模の遺跡である。トルコが文明の十字路、民族の通過地というだけあって、その中にはオスマン、セルジューク、ローマ、ギリシア、ヘレニズム、フリュギア、ビタイト、アッシリアなど九千年にも及ぶ文化がびっしりと重層した形で眠っている（写真2）。つまり、いくつもの都市がカレホユックに積み重なっている。多くの都市が同じ場所に作られた背景には、水源が深く関わっている。集落を形成することのない水が必要である。カレホユックの裾部には小さな小川があり、古の人々はそれを使っていたことは間違いない。

毎年、六月から九月にかけてカレホユックの頂上部から丹念に掘り下げを行っている。表土を外すと四百年ほど前のオスマン帝国時代の素晴らしい建築遺構が次々と顔を出す。そして中国陶磁器片、ポーランドの



(写真2) カマン・カレホユックの「年表」を構築している北区

観光は両刃の剣

トルコの経済基盤の一つとして観光がある。トルコの文化・観光省は、欧米、アジアからの観光客をも調査は復元が中心となる。

コインも出土する。ただ、出土した建築遺構を計測、撮影したのち取り外さないと、下に眠っている文化に入ることができない。如何に素晴らしい建築遺構が見つかったからと言ってそのままにしているのは調査にならない。考古局から派遣されている査察官が発掘調査に常に目を光らせている。見つかった建築遺構が人目を引きつけるようなものであると、査察官は取り除くことを容易に認めようとはしない。査察官は取り外しても良いかを考古局に問い合わせることになる。その返事を待ちながらの調査となる。

この問題は何かカレホユックだけのものではない。地中海、エーゲ海沿岸にあるギリシア、ローマ、ビザンツの遺跡の発掘調査に関わっている発掘者にとつても大きな問題である。特に、見栄えのする古典時代の円形劇場、円柱が林立する回廊、アゴラ、図書館などが見つかると、考古局からは発掘調査隊に出土した建築遺構の復元、保存に關して次々と指示が入ってくる。そのような通達が届くとどうして



公益財団法人
中近東文化センター附属
アナトリア考古学研究所・所長
大村 幸弘
(おおむら・さちひろ)



(写真3) イスタンブル・アヤソフィア前の観光客の賑わい

呼ぶ手段として遺跡を考えている。観光シーズンともなると、年間三千万人を超す観光客でトルコは大賑わいになる。彼らが落とす外貨でトルコの経済が潤されていることも事実である（写真

3）。世界遺産のイスタンブルのアヤソフィアの入りは、いつでも観光客で大混雑している。二〇一〇年代以降の観光客用のホテル建設ラッシュにも驚く。多くの遺跡を取り囲む美しい風光明媚な環境が、あつという間に変貌するのを見るのは耐えがたいものがある。そのような光景を目の当たりにすると、一生の生業としてきた考古学の発掘調査とは一体何か、観光化とは何かを真剣に考えざるを得なくなる。

ジャーナリズムも観光客で賑わう遺跡を取り上げるし、観光シーズンはテレビで毎日のように観光客で混雑する空港などを放映しているのを観ると、トルコの民意も復元、保存に大きく傾いていることは間違いないようである。見つかった素晴らしい古代ギリシア、ローマの建築遺構は、如何にそれを復元するかが問題になり、考古学としての発掘調査などは復元作業に手伝うだけの脇役に押しやられてしまうことが多い。

一九九三年、トルコの南東部シヤンルウルフアの北東約三十キロのギョベックリ遺跡（ギョベックリ）で世界最古といわれる円形の大神殿が、ドイツの考古学者の手で確認された。ぶ厚い十二本のT字型の巨石には狐、獅子、猛禽、さそり、蛇など多くの動物のレリーフが施されており、発見と同時に隣く間に世界の耳目を集めることとなった（写真4）。調査が進むにつれて、この神殿は農耕を開始する以前の約一万二千年前のものであることが明らかとなった。

注目が集まるにつれて、考古局はギョベックリ遺跡をユネスコの「世界遺産」の登録に申請、二〇一八年に「世界遺産」として認可された。それからのギョベックリ遺跡には驚くほど多くの観光客が訪れるようになった。遺跡には保存目的とする保護屋根が架けられ、発掘調査はほとんどできなくなっている（写真5）。ただ、この光景はトルコの中で好感を持って迎えられる。遺跡が観光客を呼び、トルコの経済を潤しているといわれれば、誰もが納得してしまうに違いない。



(写真5) ギョベックリの建築遺構を守るための保護屋根



(写真4) ギョベックリのT字型石柱に刻まれたレリーフ

発掘調査と観光の共存共栄の道を探る

発掘調査を行っている者はいくつもの問題を持って遺跡と対峙している。文化とは何か、文明はなぜ終焉を迎えるのか、農耕はいつ始まったのか、神殿はなぜ建設されたのかなど、考古学に携わっている者にとつて重要な研究テーマである。

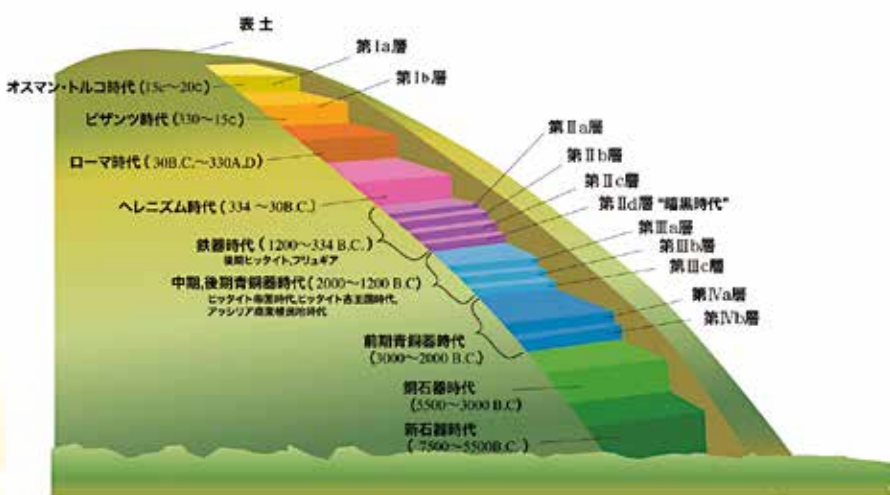
以前、ある考古学者と話した時に次のようなことを言っていた。

「発掘調査であまり注目される遺物や建築遺構は見つからない方がいい。その方がじっくり腰を落ち着けて研究できる」

トルコの考古学の発掘調査が、このところ研究とはかなりかけ離れ、単なる観光に寄与するだけに陥っているのではないかと感じる時がある。多くの研究者がその流れに押し流されてしまい、学会での

発表も発掘調査が観光に如何に貢献しているかを強調しているのには違和感を受ける。

最近ではあまり目立たない発掘現場の方が良いといった考古学者の気持ちも理解できるようになってきている。そして、発掘調査と観光化の狭間で悩みながら未だに私は現場に立っている。



(図版) カマン・カレホユックの「年表」

筆者略歴

一九四六年、岩手県盛岡生まれ。一九八五年からカマン・カレホユック遺跡の発掘調査を通して、歴史の転換点の背景、印欧語族の移動期、製鉄の起源、暗黒時代、技術の伝播の解明などを行っている。主著に「鉄を生み出した帝国」、アナトリア発掘記（日本放送出版協会）など。

筆簫 ― シルククロードの響き

時に勇壮に、時に哀愁に満ちた
音を奏でる筆簫 ―。日本の伝統芸能・雅楽に必要不可欠な
この楽器の素顔を斯界の第一人者が語る。

筆簫とは

筆簫は、雅楽で用いられる楽器です。神社やお寺の祭礼で、あるいは結婚式で「越天楽」などの旋律を吹いているのを聞きになった方もいらっしゃるでしょう。

竹でできた管に蘆舌（りど）を差し込んでも20センチメートル余りという小さな縦笛ですが、見かけによらずとても豊かな音色を持ち、特に舞楽の伴奏では、力をこめた強烈な音で合奏をリードしています。一方で、神楽や催馬楽や朗詠といった歌の伴奏では、静かに歌に寄り添いながら吹かれます。



(写真①) 鎌倉妙本寺にて笙・筆簫・龍笛の演奏

筆簫は、同じ指使いでも吹き方次第で音高をかなり上下させられるので、塩梅と呼ばれる奏法によってまるで声のよう

くつわ虫のようで聞きたくない？

日本に定着はしたものの、筆簫の響きはどうも異国風で奇妙に感じられたのかもしれない。「枕草子」の「笛は……」の段には、このように記されています。

「筆簫はいとかしがまし、秋の虫をいば、くつわ虫などの心地して、うたてけかく聞かまほしからず。ましてわろく吹きたるはいとにくきに」
(筆簫はとてもうるさく、秋の虫に例えるならば、くつわ虫の鳴く声に似ていて、近くで聞く気がしない。まして下手に吹いているのは憎たらしい)

清少納言は「聞きにくきもの」の段にもわざわざ「筆簫習ふほど」と記していて、下手な筆簫の音に猛烈な拒絶反応を示しています。そこまで言わなくても……と筆簫吹きとしては大いに反論したいところではありますが、残念ながら現在も彼女の意見に共感する方がいそうです。

ただ救いなのは、「臨時の祭りの日に、楽人が物陰で横笛を上手く吹きたてているところに、半ばごろから筆簫の音がうち揃えて吹きのぼったのは、ただもうすばらしく……」との一文もあることで、うまく吹きさえすれば清少納言にも褒めてもらえそうです。

自然素材ゆえの悩み

和楽器製作の材料入手や技術伝承の難しさは、近年大きな問題になっています。筆簫の管は煤竹で作られてきましたが、茅葺屋根で数十年煙にいぶされた煤竹がもはや入手困難となっているだけでなく、笛に適した竹自体が手に入り難いと聞きます。

に滑らかに音を移行させる一方、音程をコントロールするのは、との難しい楽器でもあります。



(写真②) 筆簫

シルククロードを通って日本へ

吹き口となる蘆舌は、葦の茎を乾かして煤かけしたものを6センチメートル程に切り、片側の先端を温めながら平らに潰して薄く削ってあります。ダブルリード楽器に分類されますが、同じダブルリード楽器でも西洋のオーボエやファゴットは、細いリードに、下へ行くほど内径が広くなる管を付けて吹く楽器です。筆簫は、太くて大きなリード（なんと管長の1/3）に、内径が上下ほぼ変わらない管を付けて吹くので、アルメニアのドウドウクや、トルコやイランのメイ、バーラーバンと同系統です。

筆簫の仲間、唐の時代には西域の亀茲（ク



(写真⑤) 上牧・鶴殿のヨシ原 (2012年撮影)



(写真⑥) つる草に倒されてしまうヨシ (2019年撮影)

さらに筆簫の場合は、蘆舌材料となる葦の生育が近年急激に悪化してきており、良い葦が入手できなくなるのではないかと切実な心配があります。筆簫の蘆舌材料は、淀川中流の河川敷（高槻市上牧・鶴殿地域）で採取されるものが多く使われていますが、近頃は葦よりも雑草の方が強くはびこり、ツルに絡まれて葦が倒されてしまう範囲が広がっています。またヨシ原は冬に焼く必要があるのですが、今年のヨシ原焼きは雨で延期、さらにコロナ感染防止で中止となってしまう。地元でヨシ原焼きや刈り取りを行ってくださる地元の方々の高齢化も心配です。

数年前、このヨシ原を横切る高速道路が計画された時には、筆簫用ヨシに影響がでないように嘆願する署名活動が行われて、工事計画が見直されたりもしました。蘆舌材料を確保していくためには問題が山積みです。

現代に生きる筆簫、次世代へ、海外へ

私は高校生までは雅楽に触れる機会が全くありませんでした。大学で故・芝祐靖先生による雅楽授業を履修して、初めて雅楽の素晴らしさ、面白さを知り、筆簫など雅楽器、古代歌謡、*左舞を学んでまいりました。雅楽は人のために奏される音楽とは一線を画し、神・仏、あるいは宇宙といった異次元の存在へ向けて発せられた特別な音楽だと感じます。先人たちが伝えてくださった雅

チャ）などで盛んに吹かれていたといえます。中央アジアあたりで生まれた楽器が、シルククロードを通じて遠く日本にたどり着いたのが筆簫だといえましょう。ドウドウクなどは、アンズの木で作られていますので、元々は木で作られていた楽器が、竹の豊富な日本に伝えられて、竹を材料に作り直されたのかもしれない。

また、ドウドウクなどは大中小といくつものサイズがありますが、どれも筆簫より長く、低音の深い音色を持っています。日本でも平安時代までは「大筆簫」があったようですが、いつの間にか低音楽器は淘汰されてなくなり、高音域の鋭い音色の楽器が残りました。当時の人々が高音を好んだためか、あるいは野外で大きな音量を必要とする場で演奏されたためか、興味深く思われます。

楽の素晴らしさをそのまま学びたいと願っています。

ただ一方では、筆簫を雅楽の中だけに閉じ込めておくのがもったいないという気持ちもあり、作曲された現代作品の演奏活動も多く行っておりま

す。力強く朗々とした音、繊細な揺れる音、おちゃめな楽しい音、いろいろな音が楽器から引き出されて可能性が広がるのがとても嬉しいのです。

近年は、小中学校での演奏会や楽器体験を含むワークショップで、生の音を若い世代に届けられる機会が増えてきました。また、コロンビア大学（ニューヨーク）の雅楽アンサンブルの指導や演奏会にも関わらせていただき、早くも十五年がたちました。海外でも雅楽が定着し、熱心に学ぶ方が



(写真⑦) コロンビア大学の雅楽アンサンブルの練習風景

が増えているのは頼もしいことです。コロナ禍を乗り越え、筆簫の魅力的な音色を、心置きなく皆様にお届けできる日を待ち望むこの頃です。

筆者略歴

東京藝術大学在学中より雅楽全般を芝祐靖氏、筆簫・箏・左舞などを大塚永夫氏らに学ぶ。雅楽演奏団体「俗楽舎」メンバーとして古典、現代作品を演奏する他、「雅楽三昧中村さんち」などのユニットやソロ奏者としても活躍。様々なジャンルの芸術家と共演し、二〇一九年のニューヨークのジャパンスァイエティ公演、パリでのジャポニスム公演、二〇二〇年二月のトリリア現代音楽祭など、海外での演奏も多い。筆簫ソロ曲「アンサンブル曲」を多数委嘱し、CD「ひちりき萬華鏡」に収録している。二〇一〇年松尾芸能賞新人賞を受賞。国立音楽大学、沖縄県立芸術大学非常勤講師。



国立音楽大学非常勤講師
一般社団法人俗楽舎理事
中村仁美
(なかむら・ひとみ)



(写真④) 筆簫属の楽器のリード。左から管子、ピリ、筆簫、大筆簫、メイ(小・大)、ドウドウク(小・大)

(写真③) 筆簫属の楽器。左から、管子(中国) 3本、唐ピリ(韓国)、郷ピリ(韓国)、筆簫(日本)、大筆簫(日本)、メイ(トルコ) 2本、ドウドウク(アルメニア) 3本

*唐楽（中国大陸系の雅楽）の伴奏で舞われる舞。

日本美術院への誘い

近代日本の美術史を語る時、
日本美術院の存在は欠かせない。
寺町の異名をもつ、谷中の一角にある
日本美術院の本拠を訪ねる。

日本美術院とは

作家で日本芸術院会員の竹西寛子先生は、かつて平山郁夫先生の思い出をつづった「平明について」というエッセイの中で、こう書かれている。「院展が知られる日本の秋がある。よほどのことのない限り、私はなるべく早く院展に行くのを近年のならわしにしている。上野公園に馴染んだのか、馴染まされたのか、とにかく日本人として誇らしく思う国立博物館が建つひとつづきの空間



日本美術院全景

に東京都の美術館があつて、そこが院展の会場なのだと秋が来る度に納得する。納得したい。……」少し引用が長くなりしましたが、院展とは正式には日本美術院展覧会といい、公益財団法人日本美術院が主

催運営している日本画の公募展覧会です。

竹西先生がお書きになっているように、一般の方々には「院展」は歳時記的感覚で定着しているように思えます。

日本美術院は、東京美術学校（現・東京藝術大学美術学部）の校長の職を辞した岡倉天心が、明治三十一年（一八九八）、新時代における日本美術の維持と開発を指標として、横山大観、下村観山、菱田春草らと創設した研究団体です。

その精神は綱領に「日本美術院は藝術の自由研究を主とす。教師なし先輩あり。教習なし研究あり」と唱われていることに尽きると思います。

谷中の地で

日本美術院は誕生から今日に至るまで順風満帆の時は少なく、むしろ波瀾万丈に富んでいたと申し上げた方が適切かもしれません。

大正二年（一九一三）に天心が没すると、その翌年、天心の意思を継いだ横山大観、下村観山を中心に安田靉彦、今村紫紅らが加わり、現在の谷中瑞輪寺門前の地に研究所を建て、再興は日本美術院として再出発しました。

を迎えた日本美術院は特別展「世紀の日本画」を東京都美術館で開催いたしました。

栄光の日を迎えた影には、理事長を先頭に多くの志を一つにする先生方のたゆまぬ努力がありました。

今や巨大な船と化した「日本美術院丸」がどういう方向に舵をとるのかは、大きな課題であることはまちがいありません。それは日本美術院だけではなく、これからの日本画のあり方が問われる問題でもあると思います。

未来にむけて

現在、日本美術院の館内は一般公開はしていません。したがって、普段はなかなか施設内を見学することはできませんが、「同人新作展」などの際は入館することができまので、こうした情報についてはホームページを御覧ください。

本年は新型コロナウイルス感染症の影響で一〇五回を迎えた秋の院展も様々な規制が加わり、例年とは異なるものとなりました。さて、来年はどうなるのでしょうか……という思いがありますが、新型コロナウイルス禍を機に世の中の日常が以前の日常ではなくなってくる、と考えた方がよいのかもしれない。

日本美術院も新しい姿を模索中です。そうし



下村観山筆「天心先生画稿」1922
「日本美術院 創立百周年記念」図録より



公益財団法人
日本美術院 参与
板屋 一弘
(いたや かずひろ)

今、閑静な寺院に取り囲まれて異彩を放っている建物は、今里隆氏の設計によるもので、平成十三年（二〇〇二）に竣工しました。

日本美術院の構成は「同人」「招待」「特待」「院友」「研究会員」等で成り立っています。「同人」は運営、経営の任も担っておりま。現在の同人は令和二年七月の時点で三十七名、招待四名、特待百四十四名、院友六百三十一名、研究会員五百五十名となっています。



同人に推挙されると、自分の名札をつくる。
左から右へ推挙された順に掲げられる

平成二十三年（二〇一一）に日本美術院は、公益財団法人となりました。再興日本美術院を率いた横山大観が昭和三十三年（一九五八）に没し、その意向を受けて財団法人となつてからは、初代理事長に安田靉彦（同年）、以後、昭和五十三年（一九七八）に奥村土牛、平成



岡倉天心御廟

た観点から開けた日本美術院をめざして、いろいろ試行錯誤をしております。

目下、ギャラリー化や同人の先生方とのお弟子さんたちを中心としたグループ展などが企画案としてあ

がつておりますが、どんな形で結実するのか、その日が待ち望まれます。

一般にはあまり知られておりませんが、日本美術院の構内の一隅に天心先生を祀った通称天心霊社とよばれる「岡倉天心御廟」があります。何の変哲もない社ですが、ここには故人となった同人の先生方の御霊も特別の事情がない限り合祀されております。

院展の図録を御覧になった方は、よく御存知のことと思いますが、そこには故人となった同人の先生方への追悼の念を記した一節があります。

その錚々たるお名前にふれるたびに先人が築かれた伝統と技術をいかに発展させ、次の世代につなげていくか……という想いを関係者の一人として痛感したしている次第です。

公益財団法人 日本美術院

〒一〇一〇〇〇一 東京都台東区谷中四丁目二一八
TEL 〇三三三八二二四五〇
FAX 〇三三三八二二九三六七
交通案内
JR 日暮里駅（南口）より徒歩二〇分
地下鉄千代田線（根津駅・千駄木駅）より徒歩一〇分

上野の杜から

上野の山の歴史群像

財団専務理事
小宮浩
(こみや・ひろ)

江戸から東京へ。
近代日本を築いた偉人が
今も、上野公園を訪れる人々を
見守っている。

西郷隆盛

上野公園——上野恩賜公園の象徴といえは、西郷隆盛像であろうか。大久保利通、桂小五郎（木戸孝允）と並んで倒幕、明治新政府の樹立に大きな役割を果たし、維新の三傑の一人と称された人物である。

西郷は後に西南戦争の首魁に祭り上げられ、敗死したため、維新の功臣から逆徒へと成り下がってしまった。



西郷隆盛(1827～77)
愛犬を伴い兎狩りに興じている姿と伝えられる

明治二十二年（一八八九）、大日本帝国憲法発布に伴う大赦によって「逆徒」の汚名が解かれたのを機に薩摩藩出身者が中心となって、銅像の建設計画がもちあがったのである。

西郷隆盛像の制作は明治日本の彫刻界を代表する高村光雲（一八五二～一九三四）が、そして西郷に連れ従う愛犬の「ツン」は、後藤貞行（一八五〇～一九〇三）が担当した。後藤貞行は馬の彫刻で知られ、皇居前広場の楠木正成像の馬像は代表作の一つである。

西郷像の除幕式は、彼の没後二十一年を経た明治三十一年（一八九八）の十二月十八日に行われた。その際の糸子夫人の「うちの主人は、こんなお人じゃなかった」等の意味の発言を含め、喧しいものが多々あった。

ある意味、「敬天愛人」を座右の

銘とした南洲先生の面目躍如たるものがあつたかもしれない。西郷像をめぐる興味は奥が深い。

安井誠一郎

JR上野駅の公園口の改札口は、この春、装いをすっかり変えてしまった。その分、改札をぬけると東京文化会館の全貌が視野に入る。その入館口の右手に初代東京都知事の安井誠一郎の胸像が



安井誠一郎(1891～1962)
令和の東京オリンピック、パラリンピックの実現を願っていることであろう……

ある。
戦後の食糧難や復興対策、また東京オリンピックの招致に尽力したことで知られている。
そうした功績によって没年の一九六二年に名誉都民に推されている。
胸像の制作者は、長崎の「平和記念像」で知られる彫刻家の北村西望（一八八四～一九八七）である。

野口英世

国立科学博物館の前、多くの木立に囲まれて試験管を持って立つ野口英世の像がある。

福島県の貧しい農家に生まれ、幼い時に囲炉裏に落ち、左手に大火傷を負った野口は、後に世界的な細菌学者となる。彼のサクセスストーリーは、少女少女むけの偉人伝には欠くことのできない存在だった。もつとも今は、千円札の肖像画の人といったほうが通りがよいかもしれない。

野口英世は研究者としては、特筆すべき努力の人であったが、私生活におい



野口英世(1876～1928)
台座には「人類の幸福のために」を意味するラテン語が刻まれている

ては多々問題をかかえていた。研究成果も後に否定されたものも多くあったが、ノーベル生理学・医学賞に三度受賞候補に名があがったことで、その実力は知られるところである。彼は黄熱病の研究中自身も罹患し、現在のガーナ共和国の首都アクラで亡くなった。

像は石川県出身の彫刻家・吉田三郎（一八八九～一九六二）の手による。

瀧 廉太郎

その将来を大いに期待されながら、二十三歳で没した明治の西洋音楽黎明期における代表的音楽家の一人である瀧廉太郎。その銅像は移築された旧東京音楽学校（現・東京藝大）の奏楽堂の庭にある。像の制作者は同郷の朝倉文夫（一八八三～一九六四）。「東洋のロタン」と称された近代日本の彫刻界を代表する芸術家である。

瀧廉太郎は、その短い生涯の中で、私たちの心に多くの名曲を残してくれた。なかでも彼の代表作である「花」「荒城の月」「箱根八里」は時代を越えて引き継がれていく名曲であろう。



瀧廉太郎(1879～1903)
制作者を記念する台東区立朝倉彫塑館は、ここからほど遠くない地にある

アントニウス・ボードワン



アントニウス・ボードワン(1820～85)
端正な顔立ちの現在の博士とは初代(?)の像の博士(実弟)は豊かな髭をたくわえた貴族十分なお顔だった

ボードワン博士については、以前、上野公園の誕生についての話の中（本誌91号）でふれたので重複は避けたい。

ボードワン博士はオランダの軍医であった。明治の維新政府は、医学はドイツ式という方針で事を進めていたが、普仏戦争（一八七〇～七二）の影響でドイツ人講師の来日が遅れたため、博士は東大医学部の前身である大学東校で教鞭をとり、オランダ医学を教えた。

上野公園の誕生は博士の提言が大きかった。その功績から、一九七三年にオランダ大使館より公園指定百周年を記念して胸像が贈られたが、当時、駐日オランダ領事だった実弟がモデルだったことがわかり、二〇〇六年、彫刻家林昭三の原型制作によって現在の像が据えられた。

小松宮彰仁親王

小松宮彰仁親王は皇族伏見宮邦家親王の第八皇子。戊辰戦争では官軍を指揮。西郷軍との戦いであった西南戦争にも出征。陸軍の要職を歴任し、元帥まで昇りつめられた。

親王は日本赤十字社総裁を務めるなど社会奉仕・事業には深い理解を示し、実践された。

銅像は上野動物園正面入り口左側の地にある。制作者は、靖国神社の大村益次郎像でも知られる彫刻家大熊氏廣（一八五六～一九三四）。

軍装・乗馬姿の親王は、あたりを睥睨している感があり、西郷隆盛像とは対照的である。



小松宮彰仁親王(1846～1903)
威風堂々。明治の古きよき時代の象徴かも……。桜の季節は特に御像が映える

上野大仏

ここで番外編を……。上野精養軒の近くに「大仏山」とよばれる本当に小さな丘がある。その頂上に「上野大仏」の名で親しまれているレリーフ状の仏さま

のお顔がある。

元をただせば寛永八年（一六三一）に越後村上藩主の堀直寄が漆喰の釈迦如来像を建立されたとのことだが、震災や火災等によって破損。その後、天保十四年（一八四三）に越後松村藩主の堀直央が新規鑄造した仏像を寄進。かつては六メートルほどあった仏さまは、関東大震災では頭部落下、太平洋戦争に際しては軍需資源として顔面を残し全ての部位を供出。

苦難と数奇の運命をたどった仏さまは、信仰心厚い人々の願いによって、ようやく現在の御姿で昭和四十七年（一九七二）にこの丘に鎮められた。



上野大仏(1843～)
間近にお顔を拝むことが出来るので、参拝者には親近感をもって願い事を奉じることが……

いかがでしょうか。興味のある方は、近代日本を代表する彫刻家の作品でもある上野公園の彫刻群像を御覧ください。

役員等のご紹介	
当財団の役員等を左記のとおりご紹介します。 二〇二〇年十一月現在 敬称略／五十音順 ◎理事（十名） 理事長 澤 和樹 東京藝術大学 学長 副理事長 青柳 正規 東京藝術大学 社会連携センター 特任教授 専務理事 小宮 浩 当財団 専務理事 理事 石井 直 (株) 電通グループ 相談役 伊東信一郎 ANAホールディングス(株) 取締役会長 滝 久雄 (株) NKB・(株) ぐるなび 取締役会長 創業者 谷川 史郎 NTT都市開発(株) 社外取締役 長岡 勤 (株) 東京ドーム 代表取締役社長 西浦 忠輝 (特非) 文化財保存支援機構 副理事長 野口 昇 (公社) 日本ユネスコ協会連盟 顧問 ◎監事（二名） 西巻 茂 税理士 布施 謙吉 弁護士 ◎評議員（二十名） 安齋 尚志 (株) NHKエンタープライズ 代表取締役社長 井上 洋一 東京国立博物館 副館長 浦井 正明 寛永寺 貫首 大杉 栄嗣 大塚オーミ陶業(株) 代表取締役社長 是枝 伸彦 (株) ミロク情報サービス 代表取締役会長 酒井 裕 (株) 精養軒 代表取締役社長 佐藤 一郎 東北生活文化大学 学長	

白井 勝也 (株) 小学館 最高顧問 澄川 喜一 島根県立石見美術館 館長 高橋 司 (公財) 鹿島美術財団 専務理事 太刀川俊明 (株) 三越伊勢丹 MD統括部 美術営業部長 長本 裕司 (株) 高島屋 MD本部 美術部長 野間 省伸 (株) 講談社 代表取締役社長 原田真由美 読売新聞西部本社 事業推進室長 日比野克彦 東京藝術大学 美術学部長 福田 豊 恩賜上野動物園 園長 真室 佳武 東京都美術館 館長 門司健次郎 富士通(株) AIサービス事業本部 シニア・アドバイザー 横田 尤孝 青陵法律事務所 弁護士 渡辺 雅隆 (株) 朝日新聞社 代表取締役社長 ◎顧問（二名） 玉井 賢二 東京藝術大学 客員教授	
◎令和2年6月16日から10月15日まで 敬称略／順不同 ☆寄付金 ○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に 対する寄付 ヤフーネット募金（108名様） ○熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業 に対する寄付 ○昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業に 対する寄付 (宗) 明治神宮 中世日本研究財団	

○サールナート（インド）野生司香雪の仏伝 壁画保全支援事業に対する寄付 善教寺 寛方タゴール会 日本赤十字社香川県支部有志 弘憲寺 東運寺 金峯山修験本宗 総本山金峯山寺 熊野速玉大社 浄宗寺 新潟県仏教会 金剛寺 (宗) 東大寺 祥雲寺 青蓮寺 四国物産(株) 極楽寺 (宗) 聖護院 恭儉寺 浄雲寺 大興寺 光明寺	
--	--

○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援 事業に対する寄付 ● ○熊本地震被災文化財の救援と復旧のための募金のお願 平成二十八年四月に熊本県を中心に発生した熊本地震により被災した文化財の保全に向けて、募金活動を行っております。 いただきました浄財は、熊本地震被災文化財レスキュー事業等、被災地域の文化財等の救援のために活用（平成二十八年度助成実施）させていただきますとともに、文化庁・熊本県と協議の上、被災文化財の修復・保存のために活用させていただいております。 しかしながら修復・保存する物件も多く、まだまだ財源が不足しています。引き続き皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。 募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。 ＊ 銀行振込 ①銀行名②口座番号③名義 ①三井住友銀行 上野支店 ②普通 8399622 ③(公財)文化財保護・芸術研究助成財団	
● ★令和二年十一月十六日発行 ★編集発行／公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎ 〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五十五 電話 (〇三) 五六八五一二二二 FAX (〇三) 五六八五一五二二五 URL: http://www.bunkazai.or.jp/ E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp ★印刷 篠田印刷株式会社	